

茂木 智弘の外国語科（高学年複式）研究計画

1 本研究で目指す子ども

本研究では、課題に応じて、解決に必要な情報や考えと英語とを関係付け、コミュニケーションを図る子どもを目指す。課題に応じるとは、想定されるコミュニケーションの目的・場面・状況等を理解し、対応することである。子どもは、コミュニケーション活動の具体的な内容を描くことで、どんな情報や考えが必要で、その情報や考えを収集または発信するためには、どのような英語が必要か考えるようになる。そして、子どもが繰り返し英語を使い、身に付けながらコミュニケーションできるようにする。

外国語 WG では、小学校外国語科を設定し、目的・場面・状況等に応じて情報や自分の考えなどを形成、整理、再構築しながら身近で簡単な英語表現を使い、コミュニケーションを図ることのできる子どもを目指している。

従来指導においても、目的・場面・状況等に応じたコミュニケーションができる子どもを目指してきた。しかし、目的・場面・状況等に関係なく、覚えた英語表現を伝え合う姿が見られた。これは、子どもにとって身近に感じられる目的・場面・状況等をつくるのが難しく、コミュニケーションが形式的になってしまっていたことに問題がある。また、小学校外国語活動においては、コミュニケーション活動の中で即時的に情報や自分の考えなどを形成、整理、再構築するに止まるが多かった。そのため、振り返りの場面で、子どもがコミュニケーション活動で何を学んだのかをつかむことが難しかった。

そこで、私は次の提案をする。まず1つ目は、子どもがより身近に感じられる目的・場面・状況等の設定を工夫する。具体的には、並行して学んでいる他の授業や行事などに関連した内容を題材にし、目的・場面・状況等を設定する。そうすることで、より日常に近い題材で英語を使うことができる。2つ目は、情報や自分の考えなどを形成、整理、再構築する場面をコミュニケーション前後に設定することである。その際、複数のデモンストレーションを提示したり、ICT ツールを使わせたりする。すると子どもは、何を目的にどんな英語を使ってコミュニケーションを図ればよいか明確になり、図ったことで何が分かって何ができたかを自覚することができるようになる。

私は、子どもがより身近に感じられる題材から課題を設定することで、他教科などの資質・能力を発揮しながら、解決するために必要な情報や考えと英語とを関連付け、繰り返しコミュニケーションを図る学習過程から目指す姿の具現を目指す。

2 本研究で育成する資質・能力

①知識・技能	②思考力・判断力・表現力	③態度
<ul style="list-style-type: none"> ○言語の働き、役割に関する気付き ○課題解決に必要な語彙や基本的な英語表現の知識 ○コミュニケーションを図るための言語運用能力 	<ul style="list-style-type: none"> ○目的、場面、状況等に応じて情報や考えを的確に理解し、表現する力 ○目的に応じて、情報を整理し、選択しながら表現する力 	<ul style="list-style-type: none"> ○相手やその背景にある言語や文化を尊重しようとする態度 ○相手意識をもって、自主的、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度

3 主張する働き掛け

題材に関わる他教科・行事などの学習・体験をし、単元で学ばせたい語彙や基本的な英語表現に慣れ親しんでいる子ども（C0）に次の働き掛けをする。

働き掛け1

外国人（ALT 含む）の疑問または資料を提示し、解決に必要な会話を問う。

課題解決意欲を高め、問いをもたせるための働き掛けである。

実生活や他教科の学習の中ではなかった疑問を投げ掛けたり、資料を提示したりする。すると子どもは、「外国人に聞いたら解決できるかも」「自分を知らない人に伝えてみたい」「自分もやってみたい」などと意欲を高める(④態度)ようになる。このような子どもに課題を解決するためには、どんな会話が必要かを問う。すると子どもは、既有的学習や経験と英語とを関連付けて、英語でどんな

会話になるのかを考えるようになる。その際、考えた会話は、タブレット端末に記録させておく。このように意欲を高め、解決に必要な会話を考えている子どもを問いをもった姿とみなす。ただ、この時点で子どもは本当にこの会話でよいのか自信がもてない状態である。

働き掛け2

複数のデモンストレーションを提示し、班や学級全体で話し合わせる。

課題解決に必要な会話の見通しをもたせるための働き掛けである。

「この会話で本当に大丈夫か」と不安に思っている子どもに、複数のデモンストレーションを提示する。すると子どもは、**外国語科の見方・考え方**を働かせて、自分が想定した会話とデモンストレーションとを比べるようになる。そこで、本当に自分が考えた会話でよいのか班や学級全体で話し合わせる。子どもは、友達と考えを交換したり（④協働性）、タブレット端末に記録した想定した会話を確認したり（⑤ツール活用能力）して、課題解決に必要な会話を修正・追加をするようになる。そして、課題解決のために英語でコミュニケーションを図るための見通しをもつようになる。

働き掛け3

課題解決のために繰り返しコミュニケーションを図らせ、結果をワークシートに記入させる。

課題解決に必要な情報を収集するための働き掛けである。

コミュニケーションの見通しをもった子どもに、ワークシートを配布し、実際に課題解決のためのコミュニケーションを図らせる。すると子どもは、**外国語科の見方・考え方**を働かせて、相手の反応に応じて、課題解決に必要な会話を考えながら英語（①知識・技能②思考力・判断力・表現力）を使い、必要な情報を得るようになる。その際、タブレット端末で会話を動画で録画させておく。そして、ワークシートに記入させることで、課題解決に至ったかどうかを確認させる。子どもは、課題とコミュニケーションを図って得た情報とを関係付け、妥当な解を導き出す（②思考力・判断力・表現力）。この時、至っていない場合は、再度コミュニケーションを、至っている場合は、場面や状況等を変え、再度コミュニケーションを図らせる。そうすることで、**課題に応じて、解決に必要な情報と英語とを関係付け、コミュニケーションを図る子ども**（C_n）になる。

働き掛け4

タブレット端末の記録やワークシートなどでコミュニケーション活動を振り返らせる。

課題解決と、その要因を自覚させるための働き掛けである。

活動を終えた子どもに、「どんな課題が解決されたか」「どんな英語を使って解決したのか」を問う。すると子どもは、タブレット端末の記録やワークシートを基にコミュニケーション活動を振り返り（⑤ツール活用能力）、解決した内容とその解決過程を記述するようになる。そして、課題解決した内容とその方法について自覚する。

4 検証

(1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、想定したC_nになったか。
- ② 構想した働き掛けにより、想定した見方・考え方を働かせることができたか。
- ③ 構想した働き掛けにより、想定した資質・能力を発揮することができたか。
- ④ 子どもは発揮した資質・能力を自覚することができたか。

(2) 検証の方法

- ① 働き掛け3を受けて、課題に応じて必要な情報と英語を関係付けて、コミュニケーションを図っているかどうか、実際の子どもの姿やタブレット端末の記録、ワークシートから判断する。
- ② 働き掛け2・3を受けて、相手の反応に応じて、課題解決に必要な会話をしているかどうか、実際の子どもの姿やタブレット端末の記録、ワークシートの記録から判断する。
- ③ すべての働き掛けを受けて、想定した資質・能力を発揮しているかどうかを実際の子どもの姿やタブレット端末の記録、ワークシートから検証する。
- ④ 働き掛け4を受けて、発揮した資質・能力を自覚したかどうかを、発言やワークシートの記述から判断する。

5 年間の授業計画

- (1) 指定研究授業 (7月) 「Let's chants! ~ Hi, friends! Lesson 6 ~」(体育3時間, 外国語6時間)
- (2) 中間検討会 (9月) 「Healthy menu ~ 新単元 Lesson 8 ~」(家庭4時間, 外国語6時間)
- (3) 初等教育研究会 (2月) 「My favorite event ~ 新単元 Lesson 7 ~」(特別活動2時間, 外国語6時間)